

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	令和元年10月10日(木) 9:15～11:15
会 場	北広島市役所 3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、武者加苗委員、天羽浩委員、谷本雄司委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	川村企画財政部長、佐藤総合計画課長、熊谷主査

1 開会

委員の全員が出席していることから、会議は成立していることを確認

2 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、谷本委員を令和元年度第4回推進委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3 議事

(1) 分野別計画案 第5～6章に係る審議

第5章について

事務局：(資料1の説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【人口増加、観光振興、シティセールスに向けた取り組みの推進】

A委員：63ページの現況と課題について、「人口増加に向けた取組を推進」と書かれているが、純粋に定住人口の増加というのは、今の時代あまり現実的ではない。厳密に言うとな関係人口や交流人口の増加の取組といった表現にした方がよいのではないか。

事務局：近年では、定住人口が減少している傾向の中で、併せて交流人口も含めた関係人口を増やしていこうという流れも出てきており、これらも増やしていきたい。

事務局：人口は、例えば今100人いるのが黙っていたら50人になり、それをシティセールス等によって70人くらいに抑えたいということを含んだ表現でもある。

A委員：人口というのは、様々な計画に全て関わってくるものだ。本当に定住人口の増加を強調するのであれば、例えば外国人労働者を含めた外国人の受入れも考えていかないといけない。そこまでの本気度があるのかということが問われてくるのではないか。

事務局：人口増に向けて、海外から外国人を定住者として呼び込むというところまでは、市として固まっていない。

A委員：海外の方の定住人口増加というのは、様々な負の面もあり、一概にそれが良いとは言

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

えない。どこまで定住人口に限定された増加を考えていくのか、それとも交流人口や関係人口の増加で考えていくのかというのは、他の施策にも関わる重要な問題だと考える。

事務局：今後、人口については、基本構想のところで触れていきたい。国の人口推計や、市の独自の推計、定住人口策、ボールパークの波及効果等の人口に与える影響も考えながら、議論していきたい。

D委員：関係人口の創出・拡大について、札幌一極集中の流れをこちらに持ってくることを考えるべきである。JR千歳線の沿線は、これからの北海道の将来を担っていく人たちが集まる場所である。オリンピック、新幹線の延伸、新千歳空港、そして苫小牧でのIRの可能性などがある。特にIRは、年間の来訪者が860万人も来ると計算されているとのことである。これらの人々は、必ず札幌や小樽にも行くはずだ。そして、北広島市にも一度寄っていただき、体験型の観光地として観光客を呼び込むということを是非検討していただきたい。

委員長：これらの件について、関係人口や交流人口がどのような流れでうまく定住人口に結びついていくかということや、どのような流れで人を呼び込むかということなどは、整理をしていった方が良いかもしれない。

【観光客について】

B委員：63ページの現況と課題に書かれている本市の観光客の入込客数の128万人はどこに来ているのか。

事務局：主にゴルフ場と宿泊施設であるが、カウントの仕方として、市外から来た方だけのカウントしている訳ではない。

委員長：カウントの仕方が難しく、北海道内の観光客は、確か記憶では1年間に5,600万人だったが、その殆どが北海道民である。そのため、我々がどこかに遊びに行くだけでも観光になっている。海外からのインバウンドが多いと言っても、5,600万人のうちの300万人程度であり、人数で言うととても少ない。観光客の入込客数の捉え方、何を観光とするかで大分変わってくるものである。

【ボールパーク等を通じた交流、国際交流について】

C委員：65ページの現況と課題に、「ボールパーク等を通じた交流をきっかけとして」とあるが、姉妹都市交流、国際交流のほか、例えば道内の各自治体との交流も推進していくことが、今後求められてくるのではないかと。

事務局：第6章の産学官連携の推進(70ページ)において、国や道、自治体との連携、民間との

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

連携、大学との連携について触れている。ボールパークで言えば、オール北海道ボールパーク連携協議会で北広島市がリーダーシップをとり、各市町村の担当者会議等を実施している。

D委員：国際交流の推進について、北広島団地地区のモデルとなったフィンランドのタピオラ団地があるエスポー市と交流するのも良いのではないか。エスポー市には、ノキアの本社もあるため、そこから工業の振興が始まり、先端産業も取り入れることができるのではないか。また、今年(令和元年)の12月からは、新千歳空港からフィンランドへの直行便ができる。

サスカトゥーン市「等」とする、あるいは「交流を促進し、新たに友好都市を提携します」等を入れ、推進していただきたい。固有名詞を出さないにしても、世界各地との交流を進めてほしい。

事務局：相手もいることなので、どこまで書き込めるかはわからない。

D委員：私は、サスカトゥーン市との交流を推進しますというのは、非常に疑問である。高校生がお互いに行き来するのは良いが、産業の振興にも至っていきなく、本市とも特に関係がない。例えば、サスカトゥーン市という固有名詞を出さずに世界各地との交流を進めていきますなどの表現にした方が良いのではないか。

C委員：それではきっと書きづらいだろうから、サスカトゥーン市をはじめとしたというような書き方にすれば良いのではないか。

D委員：私は、サスカトゥーン市のことを入れるのであれば、他都市のことを入れた方が良いと思う。または、サスカトゥーン市という固有名詞をそもそも入れないか。

委員長：事務局内部で検討していただければと思いますが、今後の他都市との交流の可能性の余地を残しておくという意味でも、そのようなことを推進していくというニュアンス的なものをうまく入れ込めると良いかもしれない。

【農業の振興について】

C委員：農業の振興が第1節に来ているが、本市の商工業を含めた出荷額や販売額等としては、農業が占める割合は1~2%であり、本市としての農業のウエートは、商業等と比較するとかなり小さいはずである。また、スマート農業の導入促進と記載されているが、十勝などの大規模な農家ではイメージできるが、北広島市の農業を考えると、国の施策をただ落とし込んだ文章になっている気がして、具体性が乏しい。

施策3の「都市住民との交流」については、大消費地の札幌が隣にあるため、大消費地のニーズに合った農産物の栽培を推進する等の施策があっても良いのではないか。農業を第1節として最初に持ってくるとしたら、例えば今1~2%の出荷額の割合を10%

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

に高めるようにするには、どのようなことをしたら良いのかということを考えて計画に落とし込んでいくべきである。

事務局：順番を変えることも考え所管部署とも検討したが、第1次産業、第2次産業という順番で掲載することとした経緯がある。確かに生産額や販売額で言うと農業は小さいが、耕作放棄地などの有効活用などの観点もあり、やはり農業を最初に持ってきていたいという現場サイドの考えもある。また、スマート農業については、例えば無人トラクターなどというものだけではなく、コンピューターを使った温度管理などのようなものもスマート農業の分野に入るため、本市としても活用の余地はある。

C委員：そういうことならば、それなりのめざすべきところをはっきりさせるべきである。近隣の江別は、農産物の直売所があったり、スイカやメロンも売っていたりと農業を身近に感じやすい仕組みができていて盛んなイメージがある。北広島市は、そのような仕組みがうまくできていないのではないかと。農業は、本市としてのウエートがとても小さいことが気になる。節の順番はしょうがないとしても、もっと力を入れることがわかるような書き方ができないものか。

B委員：農業生産額のうち、殆どの割合が卵生産である割にその件がここには全く出てこないのは不自然だ。活力ある産業であり、市内で雇用も生まれ、目的に合っているのではないかと。第5章は、活力ある産業が目的であるため、卵生産を中心に頑張ってもらえば良いのではないかと。零細の農家は、普通に経営していくとなくなっていく。新規就農者の支援ということも計画に書かれているが、逆にそんなことをして良いのか。十勝のようなところで新規就農するならば良いが。

A委員：確かに比率としては非常に低いのに、章の最初に来て、文字数的にも他の産業よりも多い気がする。特に北広島市は商業がメインであり、農業と商業を一緒にしても良い。むしろ農業の高付加価値化や6次産業化をもっと売り出していけば良いのではないかと。また、農業だけボールパークとの絡みが書かれていない。実際にボールパークの中でマルシェを企画するという話もあり、そういった商業との関連で農業は残ると思うが、節を一つ割くほどのものかと言われると疑問だ。

【ボールパーク効果から波及する雇用について】

委員長：61～62ページの雇用の節に関し、ボールパークができると恐らく雇用も増えて、それが定住人口にも繋がるものと個人的には思っているが、この雇用部分の節に、ボールパークに関する記載が、一切無い状態である。この節でないのかもしれないが、雇用も生まれるということや、雇用から定住人口が生まれるという戦略は、整理した方が良いかと思う。

事務局：ボールパークでの雇用に関しては、アルバイトも入れた延べ雇用人数でいうと、約1万

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

人程度になるのではないかなと言われている。そのため、市内の雇用の場としては、とても大きな部分になると思うので、検討させていただく。

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

第6章について

事務局：(資料1の説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【組織・職員の活性化について】

D委員：72ページの行財政運営の推進の施策5の「組織・職員の活性化」について、昇進管理は試験制度を実施しているのか。

事務局：本市では実施していない。消防では係長職に上がるときに試験を実施している。

D委員：健全な上昇志向を持つために、幹部職員の試験制度を検討してほしい。

事務局：職員の育成、能力開発、意識改革については、試行錯誤しながら検討していきたい。

【自治会・町内会の加入促進について】

C委員：68ページの施策3「地域コミュニティの推進」に、自治会・町内会の加入促進とあるが、近年、自治会・町内会は存続の危機である。活動の支援とは、どのようなことを考えているのか。

事務局：自治会・町内会への交付金の交付の継続と、町内会長が行うべき業務をマニュアル化したようなガイドブックなどを作成・配布している。

C委員：ガイドブックについては、ある程度マニュアル化する必要があり、会長の業務や街路灯の補助、会計業務、親睦・交流なども含めて充実させると役員の引き受け手もできて、存続の危機は、少しは先送りできるかもしれないため、とても良い取組である。

【大学との連携、芸術文化について】

C委員：包括連携で星槎道都大学や北海学園大学との連携という記載もあるが、市内から大学が無くなってしまえば、更に人口は減っていくことが想定される。それらを防ぐ意味でも、例えば、星槎道都大学の特色である美術学部とも連携し、芸術文化の発展にも繋げていってほしいことを要望する。

【ボールパークから波及する市民参加、大学連携、行財政運営について】

A委員：第6章には、ボールパークの記述が殆ど無いが、もっとあっても良いのではないかと。70ページに北海道ボールパーク連携協議会の話が出ているだけだ。例えば、市民参加の部分で、地元愛を高めるためにボールパークを活用するといったことも考えられる。大学との連携においても、星槎道都大学は野球が強く、ボールパークと連携すべきだ。行財政運営に関しても、歳入も歳出も増えるだろう。ボールパークの件は横

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

串を通すという話が以前あったが、どのくらいこの総合計画の細かい部分に染み込ませていくのかという話でもあり、ボールパークと関係性のある表現がもっとあっても良い。

委員長：第6章の現状の基本目標が「ともに歩む持続可能なまち」と言ったときに、やはりボールパークの記述があまり出てきていない。また、もう1つは、ボールパークに関するアメリカ視察の職員の話が出ていた件で、球場等があることによって抱いている住民の誇りであったり、それらのプロジェクトと一緒に加わろうという住民の気持ちを大切にすべきである。市民と行政がボールパークを通して将来このように協働していきたいということが、残念ながら総合計画全体からは感じられない。そのため、ボールパークがあることによる住民の誇りに関する内容を基本構想として最初を書くのか、どこに書くかは要検討だが、この件が北広島市の総合計画の特色になり得る大事なことであると思う。

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

(2) 基本構想案の基本目標に係る審議

事務局：(基本構想の基本目標に係る審議資料説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【持続可能なまちについて】

C委員：「ともに歩む持続可能なまち」のところで、「社会情勢等の変化にもたくましく対応するまちをつくります」とあるが、「成長」という言葉が全然入っていない。めざす都市像には「成長都市」とあり、どちらかという切り開いていく。目標のところにも「成長」が入ったほうが良いのかもしれない。

委員長：持続可能というのが、今後の人口減の中、努力して行政運営を継続していくという意味で書かれていると思うが、めざす都市像の「成長」と、どう整合をとるのかというのは極めて重要な部分だ。「希望」が持てるような雰囲気を出すということが大事かもしれない。

A委員：「成長する」という言葉を入れるのは賛成で、(5)の活力みなぎる産業のあたりでも良いかと思う。「持続可能」という言葉は、これまでの10年では行財政運営の話であったと思うが、今後はもう少し広く、どちらかという基本目標(4)の「環境」という言葉と「持続可能」という言葉を合わせた方が良いのではないか。「持続可能で住みよい環境に囲まれたまち」。(6)は「誇りを持てる」という定性的な言葉を入れると良い。市民参加や協働という印象だ。魅力あるまちづくりを実践して、その結果、誇りを持てるようになる、地元愛のニュアンスがあれば良い。

B委員：基本構想の序論には、「人口減少という現状を直視し」とあり、基本的に人口は減っていく前提で計画がつくられ、そこから持続可能というのが出てきているのだと思うが、人口減少を直視したら成長ではないと思う。

D委員：成長というのは、人口が増えると考えると無理があるので、数的ではなく、質的に人的資源が向上していくという考えは成長だ。

委員長：色々考えてきたときに、「成長」とか、「持続可能」という言葉と、あとボールパークの絡みで、それを全部整理したときに、さてこれがどういう位置付けになるのかということは、1回リセットしながら考える。ボールパークのように将来成長が見込める都市は、珍しい。そういったことから何か未来への希望を持たせるような、象徴になるような都市にもなり得るよというあたりも、少しポジティブに書き込んでもいいかなという印象を持つ。恐らく皆さんもそういう感覚をお持ちなのかなと思う。

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

(3) 基本構想案のめざす都市像に係る審議

事務局：(基本構想のめざす都市像に係る審議資料説明)

委員長：それでは、意見等いかがか。

【基本目標の表現について】

A委員：希望都市のところ、「みんなが」というのは子どもっぽい感じがするので、「だれもが」の方が良いのではないか。

C委員：基本目標(3)も「だれもが」であるため、めざす都市像も「だれもが」で良い。

B委員：成長都市のところの「大都市に隣接し」というのは、恵まれた特性と言えるのか。逆に大都市の隣であるここに住む必要がなくなっている気がする。

委員長：「大都市に隣接し」という文言はなくても、地理的条件に恵まれているというのは事実であるため、そのことだけ記載すれば良い。

C委員：成長都市の説明文の「本市は...新しい可能性を秘めたまちです」の文章だけ本市の説明文章になっており、他の文章と比較しても違和感がある。「隣接」が良いのではなく、空港があることや交通アクセス自体の立地で良いということであるため、これらを手早く言葉にし、説明調でなく、「充実した生活環境」に続けられれば良い。

委員長：第5次の総合計画を踏襲して作られていると思うが、想いやメッセージがこもるような書き方に大きく変えても問題ないのではないか。ボールパーク自体がかなり大きな変化であり、期待をもって、自分達はこうだというメッセージを発信できる、あるいはそれを受け入れるような書き方に変えても良いのではないか。

B委員：めざす都市像にはボールパークという言葉は使わないのか。

事務局：位置付けを考えながら検討していく。ボールパークから経済、雇用等に波及していくことを記載したページを一つ設ける予定ではある。

委員長：例えば、めざす都市像の背景を書くような部分にボールパークのような大きなことがあるということは入れておいても良いのかもしれない。

令和元年度第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

4 その他

委員長：日程の確認について、事務局にお願いしたい。

事務局：次回(第5回)は、11月25日午前9時半からの開催を予定している。

5 閉会

委員長：(閉会)

会議録署名委員
